

特集

スコーピングレビュー／ レビュースタディの 報告ガイドライン

近年、看護学においてレビュースタディへの関心が高まっています。中でもスコーピングレビューは急速に普及しつつあり、多くの発表がみられると思われます。こうした進展に伴い、学術誌の投稿においてもレビュースタディに関する様々な報告ガイドラインが発表されています。

本特集では、まずスコーピングレビューを中心にレビュースタディの様々な手法や位置づけを概観します。そして、レビュースタディでは図書館司書など Information specialist の存在が重要となることから、研究者との協働と Information specialist が果たす役割と貢献を、レビュースタディのプロセスに沿って具体的にみていきます。その上で、レビュースタディにおいて参照される報告ガイドライン PRISMA の拡張版 (extensions) に焦点を当て、主要な報告ガイドラインを紹介します。レビュースタディの進展と研究知見の体系化をめざして――

『看護研究』編集室

企画：友滝愛（東京大学大学院医学系研究科社会連携講座

ナーシングデータサイエンス講座特任准教授）